

### 第3回 伏見区基本計画策定委員会 摘録

日時：平成22年3月10日（水）

午後3時～5時

場所：伏見区総合庁舎4階大会議室

#### 1 開会

伏見区長：開所した新しい庁舎で本委員会が開催でき、大変感慨深いものがある。本日は基本計画素案についてご審議を賜ることとなる。住民円卓会議及び区民アンケートでたくさんのご意見を頂戴した。皆様方の貴重なご意見をいただき、次期基本計画を練り上げてまいりたいと考えている。

本日はゲストスピーカーとして醍醐コミュニティバス市民の会事務局長の今福久様にお越しいただいた。醍醐コミュニティバスは住民ご自身が立ち上げられ、運行されているバスとして全国的にも大きな注目を集めている。醍醐コミュニティバスが走るまでの道のり、ご苦勞等をお話いただき、基本計画策定の基礎となる住民主体のまちづくりのヒントが得られることと期待している。よろしく願いしたい。

座長：新たな総合庁舎は前回の基本計画の際には重要な案件であったが、ようやく完成し、今日この場所で会議ができることに感激している。

今日は、永山委員から若い人の意見を聞くべきだとのこと指摘があったアンケート結果についての報告、また素案についての説明もある。素案から最終的な計画案に向けて本格的な議論が始まる。ぜひ積極的にご発言いただき、次期計画へ向けて中身のあるご提案をいただきたい。

事務局：素案の審議については当初今回のみとしていたが、より議論を尽くすため2回にわたってお願いしたい。詳細は後ほど事務局から説明をさせていただく。

#### 2 議題

##### (1) 第2回委員会の総括

- ・事務局より資料1の説明

座長：ただいまの説明で前回発言したことが盛り込まれていない、意見が違う、あるいは補足等があればおうかがいしたい。何かあれば、また後ほど時間を取るなのでその際にいただきたい。

##### (2) ゲストスピーチ

座長：前回委員会の総括でも出たように、「人づくり」のなかには、住民主体のまちづくりが大事との観点が含まれている。全国初の市民共同方式による運行で注目され、実績を重ねておられる醍醐コミュニティバスについて、醍醐コミュニティバス市民の会事務局長の今福久様からお話を承りたい。

- ・ゲストスピーチ「醍醐コミュニティバス～醍醐住民のパワーが市民だけの手作りコミュニティバスを育てた～」今福 久 氏（醍醐コミュニティバス市民の会事務局長）

今福氏：今日はお話のあと、皆さんから質問をお受けしたいと考えている。

私は平成 19 年 7 月から事務局長をしている。醍醐コミュニティバスは地下鉄醍醐駅を起点に、平成 16 年 2 月 16 日からスタートして運行 6 年目に入った。現在 5 つの路線で 1 日 1,450~1,500 人の利用者数がある。多いのは 4 月、醍醐寺の花見で観光客が大変多く、去年 4 月はトータルで 9 万 6,000 人余りだった。少ないのは 1 月で 3 万 8,000 人余りだ。先月 28 日現在で、トータル約 253 万 5,000 人の利用者になっている。平成 20 年度の 1 年間で 57 万人余り、本年度も 57 万人を少し上回ると予測している。

5 周年の記念行事として作成した路線図と時刻表のカラーの資料をお配りしている。これを 3 万枚刷り、醍醐地域 2 万 2,000 世帯、各ご家庭に無料で配布した。

平成 13 年 9 月に市民の会を立ち上げて 8 年半余り、役員 1 人として活動してきたがおよそ 5 年間は苦悩と心配事が交錯した。役員はすべて素人であったために大変だった。運行をお願いしたヤサカバスとの連携を大事にしながら、現在では約 50 社からパートナーズとして支援をいただき、みんなの足として醍醐地域ではなくてはならないコミュニティバスとして親しまれ、走らせてよかったと思っている。これまで京都府知事賞、京都市長賞、NHK 会長賞、読売新聞統括本社社長賞、あしたの日本を創る協会の表彰、日本都市計画学会の計画設計賞などを受賞した。

バスは白い車体で「醍醐の貴婦人」と呼ばれている。これまで全国各地から約 140 社視察に来られ、皆さん感心して帰られるが、現在市民だけの手づくりによるコミュニティバスは私どもだけだ。

記念式典の開催や節目となる乗客数達成日等をご紹介すると、運行開始した平成 16 年から 2 年後の平成 18 年 2 月に 50 万人を突破、平成 19 年 5 月には 100 万人を突破、平成 21 年 2 月には 5 周年記念式典を開催、21 年 4 月 1 日に 200 万人を突破した。先月 2 月 5 日には利用客が 250 万人突破し、順調に推移している。

お手元に「醍醐住民のパワーが市民だけの手作りコミュニティバスを育てた」という資料をお配りしているが、全国初といわれる市民手づくり、「市民共同方式」でスタートした。平成 9 年 10 月に京都市営地下鉄東西線が醍醐駅まで開通したことで、京都市中心部への利便性は大きく向上したが、これに伴い市バス路線が民間バス会社に移管され、路線の廃止や減便となり、とくにお年寄りや福祉の乗車証を使われている方の地区内の移動がかえって不便となった。そこで醍醐地域の 10 校区の自治町内会連合会と 6 校区の地域女性会が中心となって、平成 13 年 9 月に任意団体だが「醍醐コミュニティバスを走らせる市民の会」を発足した。

交通工学専門の京大の中川大教授や、ビジュアルデザイン専門の京都造形芸術大学の奈良磐雄教授にアドバイスを受けながら 100 回超の役員会で議論を積み重ねた。ヤサカバスが路線バスの事業に意欲的で協力を仰ぐことができた。市民フォーラムの開催や、各校区を回り PR に努めた。3,000 人余りの住民に対してアンケートを実施し、99% から「走らせてほしい」との意見をいただいた。素人ばかりのなか、役員 1 人の気持ちが一つにならないといけないと不安と決意が交錯しながらも次第に機が熟してきた。

会長、会長代行以下 26 名の役員で構成、運営している。各学区の会長、女性会の会長等が名前を連ねている。運行開始当初は市民の会の資金はまったくゼロで、各市民から 500 円をお願いし、企業からの支援金もお願いした。利用者の運賃収入だけでは経費をまかなえないため、沿線企業、商業施設、病院等にパートナーズとして資金を出資していただいている。パートナーズの月額料は、A が 2 万 4,000 円、B が 1 万 5,000 円、C が 9,000 円で支援を頂戴している。現在は 50 社近くになっている。その他、個人サポーター制度で年間一口 1 万円、または 3,000 円を呼びかけ、200 人余りの方が応じてくれている。

醍醐コミュニティバスは現在 5 路線、総延長 35 キロ、バス停は 109 カ所、1 日 170 便、午前 7 時台から午後 7 時台まで運行している。バスは 38 人乗りが 3 台、14 人乗りが 1 台、予備 1 台の 5 台で、1 回の運賃は大人 200 円、小学校 6 年生までの子どもが 100 円だ。きめ細かく、小回りのきくバスサービスで、病院への通院や買い物の足として沿線住民から大変喜ばれている。昨年 7 月、NHK の全国放送で紹介されたことで、あちこちから視察や見学に来られている。

お年寄りや女性の外出機会が増え、遅れることがほぼないため非常に高い評価を受けている。昨今、高齢者が増えたため若干の遅れはあるようだ。

順調に運営できているのは役員会でコミュニケーションがうまくできていること、お互いに足を引っ張らない、役員一人ひとりが地域貢献に対する精神に富んでいるといったことが挙げられる。今年の醍醐の花見も3月27日から16日間、毎日18人、延べ288人にボランティアをしていただくことになっている。また人任せにせず、役員のやる気があった、運行について明確な理念があり、地域女性会のバイタリティ、パートナーズの協力支援、住民のパワーと温かい支援、市民の会の村井会長を先頭に有能な人材、スタッフに恵まれたことが、成功の要因と思っている。今後は利用者1,000万人を目指して頑張りたい。

座長 : 元気の出るお話をいただいた。質問等があればお願いしたい。

委員 : 実際はさまざまな困難がありそれを克服されたと思う。向島ニュータウンでは京都市バスや地下鉄が乗り入れていないので、醍醐のような制度を起こしたいと思っているが、前提となる資金の工面が私たちのところはまったく期待できない。それはなんとかなるものなのか。市からの助成金はあるのか。

今福氏 : 市民だけの手づくりである。敬老乗車証等を利用する関係で京都市からの助成金はあるが、その他にはない。4社の大口パートナーズによって何百万円という財政的なベースができたことでスタートできた。この4社がなければできなかった。また市民の会の執行部で3年間のみ、多少出費している。地域女性会からも若干の補助がある。パートナーズは20数社のスタートで今は50社近くだが出入りがある。儲からないが損はしていないという運営状況だ。

委員 : ニュータウンは住民ばかりでスポンサーがない。そのような条件下では困難かと思ったのでお聞きした。

今福氏 : すべてラッキーだった。ヤサカバスとの連携があり、市民の会のスタッフがそれぞれ頑張ってくれた。年を取ってきたので今ならできないが当時はバイタリティと愛情をもって動けた。悩みは次の世代へのバトンタッチをどうやっていくかだが、半永久的に運行したいと考えている。

伏見区長 : いつも非常に気持ちよく乗れる。乗務員さんの態度は大変素晴らしい。

今福氏 : 私も乗って、何か感じたことがあればヤサカバス本社に連絡している。日本語のよさ、美しさを運転手さんにも忘れないでほしいと思っている。醍醐コミュニティバスは運転手のマナーがいい、親切だと皆さんから聞いているが、何かあれば、おっしゃっていただければまた伝えておく。

座長 : ほかにもご質問があると思うがここでゲストスピーチを終わらせていただく。  
議題の(3)に入る前に、事務局から今後のスケジュールの変更について説明をお願いする。

#### ・事務局より資料6の説明

座長 : 委員からのご意見を反映し、市の全体計画の進行との兼ね合いも考え、6～7月の間にもう一度委員会を開催するということだ。

### (3) 住民円卓会議及びアンケートの報告

#### ・事務局より資料2, 3の説明

- 座長 : 地域ごとに違いが出ていることがよくわかる。円卓会議の座長の方から補足等、あるいは説明へのご質問があればお願いしたい。
- 委員 : アンケートでは、一部の地域では交通網の整備に強い要望が出ているが、そうした内容と円卓会議での内容でどの程度一致しているのかを円卓会議の座長の方にお聞きしたい。  
また、アンケート項目にある「その他」のなかで、目立った意見があれば事務局にお聞きしたい。
- 委員 : 久我・羽東師地域は交通網に関してはまったく整っていない。バスも1時間に1本しかなく、その他の意見でもこればかりだ。また集会所がない。道路も狭く、東西が2本、南北1本しかない。そういったものから整備しなければいけないということだ。
- 委員 : 円卓会議ではキャッチフレーズを考えるなかで交通網について意見が出てこなかったか。
- 委員 : 交通網に対する意見は、出ていたが、今回の円卓会議では、住民主体のソフトな取組をテーマとしていた。
- 委員 : 向島地域は市バスが入っておらず、地下鉄もない。地域外へ出る際は近鉄電車を利用する必要があるが、その場合、敬老乗車証等の恩恵が受けられない。それが最重要の要望だがなかなか解決しない。また、高齢者対策が大きな問題となっている。
- 委員 : 深草は5学区あり、そのなかで藤城地域はいい住宅地域だが、公共交通がなくお年寄りが坂道で困っている。また、稲荷学区は信号が一つもないと言われている。昔の町並みが続いていることもあり、そうしたまちに車が入るのはいいのか、ということもある。
- 事務局 : 円卓会議の件で補足させていただく。今回の円卓会議では交通問題等のご意見も多々あったが、住民主体で取り組めることという主題でお願いしたため、アンケートの内容と円卓会議の意見等が一致していないところがあったと思っている。  
アンケートの「その他」は、数が少ないが、問3の自由意見も含めると、テーマパークの誘致や、ショッピングモール、落語の寄席等のご提案をいただいた。
- 座長 : 円卓会議では、区民・事業者が主導する取組として議論されたので、そのような視点が入っていると思われる。  
とくになければ、後ほど意見交換の際にお願いしたい。

### (4) 基本計画素案について

#### ・事務局より資料4-1, 4-2, 5の説明

### 3 意見交換

座長 : 全体の将来像については原則了解を得ていると考える。取組方針やテーマ、文言等についての他、足りない項目や強調すべき項目があればお願いしたい。また、空欄になっている重点戦略「融合プロジェクト」だが、今後10年間、伏見区で取り組むべきことで優先順位が高いものについてご意見をいただきたい。

委員 : コミュニティバスのような地域住民が参加するコミュニティビジネスの支援が大事。これは、まちづくりの取組目標(3)の①と同(4)の一部の内容を重ねたものと言えるし、同(1)の環境とも関わる。

座長 : コミュニティビジネスの創業支援、継続のためのサポートの観点も出てくると思われる。

委員 : 素案の将来像に「水と緑」とある。現在、天ヶ瀬ダム of 整備により、この付近の堤防が強化されている。今、天ヶ瀬ダムからは最大800トン/秒放流されているが、これは、近鉄の鉄橋南にある遊水地の満杯状態が3~5日間続く量だ。事業が進むと天ヶ瀬ダムからは1,500トン/秒放流されることになる。天ヶ瀬ダム再開発計画では、1,500トン/秒の水量が10日から2週間放流されると言われているが、かつて三河川が合流する地域で水位が上昇し、淀で堤防を切ったことで大水害が起こった。専門家の指摘では、宇治川の堤防基盤(土台となる地質条件)は脆弱であり、長期間宇治川の水位が高い状態が続くと、液状化による堤防崩壊の危険性が高くなると言われている。また、堤防強化の計画は一部であると言われている。通常の洪水は、高水位は1~2日で終わるが、天ヶ瀬ダム再開発による長期間の大量放水、高水位は宇治川堤防を危険にさらす恐れがあります。  
「水と緑」と美しい言葉をいう前に、そのような問題を解消してもらいたい。ダム整備が計画どおり進められると伏見の「水と緑」は生かされるのかどうか。次回でかまわないので専門分野からの見地をお聞きしたい。

事務局 : 水害の関係は安心・安全という項目で考える必要がある。国土交通省の整備計画については京都市の建設局でも意見を出している。それも踏まえて委員会にもお答えさせていただきたい。

委員 : 資料5のp4、向島地域の「まちの気になること」のなかで、中国帰国者の方のことだと思われるが、「外国籍居住者が多く」の記述は改めたほうがいい。  
これからも中国帰国者の人口は増えると思われる。入居された方にとって言葉の壁がいちばん大きい。それに対する市のフォローがされていない。地域包括支援センターに行っても中国語に対応する職員が配置されておらず、中国語の案内もない。福祉事務所にもマニュアル等がない。支援がなく自治会の人も困惑している。ニュータウンなど一定の居住区で人口が増えているのに受け皿がない。この記述は中国帰国者と明確に書く必要があるし、市の方策も答えがほしい。

委員 : 市の外国籍市民施策懇話会の委員をしているが、「外国籍」という言い方を改めようということで、おそらく来年度からは名称も変わる。向島、醍醐地域の中国帰国者も多くは日本籍で外国籍者ではない。在日韓国・朝鮮人は2世以上が95%で日本人との交流はうまくいっているが、中国帰国者は同じ帰国者か中国籍の方と結婚することが多く、その中でのコミュニティができてしまう。小・中学校で子どもたちは日本語の覚えも早い大人はなかなかうまくいかない。

蹴上の国際交流会館は通訳を置いていて、遠い場所には出張してもいいといっている。向島にある区役所の証明書発行コーナーに中国語が理解できる職員を配置するなど併せて、行政も対応してほしい。

事務局 : ご指摘の記述、言葉については修正をさせていただきたい。  
また、京都市国際化推進プランのなかでもご指摘の内容が出ていると思うので、そちらとも整合を取った文章としたい。

座長 : 多文化共生社会の実現のところも、融合プロジェクトで伏見としては掲げていくべきではないかのご指摘と受け取ったので、ぜひそういう方向でお願いしたい。

委員 : 基本計画を拝見して一般的に必要なことや、住民の方からの希望を整理したという印象だが、今回の基本計画は過去の計画とどこが違うのか。また住民アンケートを見ると3つの地区が交通網、残りの3つは高齢者福祉を重要課題としていて、大学生と思われる若い人は歴史や環境都市という視点がある。重点戦略を考える際に何を根拠にすべきかがわかりにくいので、今回の基本計画の特徴的なことを教えていただきたい。

事務局 : 前回の計画ではパートナーシップという言葉を使っていたが、今回は「共汗」を前面に出している。素案の網かけ部分(取組テーマ)に「私たちは」という言葉をつけているように、伏見区の皆様の計画としてつくりあげていきたい。  
地域別で3つの地区が交通関係、残りの3つは高齢者福祉とのお話については、両方とも大事だと考える。例えばp21の久我・羽束師地域の取組方針(基本的に住民主体で取り組むことを記載)では、区画整理や道路整備などは行政主導で行われるものだが、地域にとって重要なことであるので「関連したその他の意見」として掲載している。  
区民の皆様とともに、あるいは区民の皆様が主体となって取り組むことを主体に構成していくということが今回の特徴と考えている。

座長 : 融合プロジェクト(重点戦略)の考え方は、優先的に解決すべき課題解決型のものと、次の世代にとって大事な、新たな可能性を開くような発想と両方必要だ。  
今回は前回の「パートナーシップ」以上に、区民の皆さんが主体となり行政とともにやっていこうということが重点戦略の対象になることをご理解いただきたい。  
前回の伏見区の計画では環境を大きな柱にしていた。市のなかでも伏見がまずそれについて語るべきとのスタンスは今回も継承したい。継承すべきものは継承し、追加すべきことは追加し、やめるべきものはやめるということでメリハリがつくと考えている。  
10年前は、伏見区は他区より若いとの議論があったが、今回は明らかに高齢化が進行しているとの認識が強く出ているという印象を受けている。

委員 : 先ほどのアンケートの若い人の視点だが、大学生は伏見に住んでいない者が多く、伏見に対する見方は違うと思われるので、住んでいる人の意見とは違うのではないかと思う。  
今後、伏見区が市のなかでどういった役割をはたすのか。その意味で重点プロジェクトは区内ではなく、外に対して伏見をアピールするようなことも必要だ。例えば南部が発展しないと京都市も発展しないとか、伏見区は広く、地域格差があるが、基本的な行政サービスは同様に受ける権利があるとの観点で、伏見は京都市にとって重要なところなので配慮してほしい、市全体としても伏見を応援し

てほしいといった重点プロジェクトを考えていくのも一つではないか。ごみの処理場等の公共施設も今のままでいいのか、他区と分担することなども訴えていくべきだ。

その意味で資料5のp5,「めざす伏見の10年後」のなかで「暮らしの場と(中略)、廃棄が」とあるのは、他区からも伏見に廃棄があつていいと思われてしまうのではないか。あまりここで強調しすぎるのはどうかという気がする。

座長 : 加藤委員から資料の配布要望があつたので、それについてご発言をいただきたい。

委員 : 学生も伏見区で活動している。大学、学生を活用するという観点で、お配りした資料にあるような調査を行った。そのなかで両隣と会って挨拶もしない学生が6%, 10軒になると19%, 50軒になると42%となる。地域のつながりが薄れていることがよくわかる。今後どうつきあっていきたいかは、親しくなるきっかけをつくってほしいが「淡い」つきあいを求めているのが今の若者たちだ。挨拶運動にもふれておられたので、「温かいぬくもりの伝わる伏見区」の素材にしていたらと考える。地域活動(行事)に誘いかける際に、学生が望む形等も書いているので参考にしていきたい。

座長 : 伏見区で大学生は何人ぐらいいるのか。次回でもお答えいただければ結構だ。

委員 : 外国籍、観光、学生のことについて数字が見えてこない。人口が市内の区ではいちばん多いのは知られていても、税収入は京都市で4, 5番目ということはあまりご存じないと思う。行政はデータを持っているだろうが、事業者数、生活者数、年齢層といった基礎ベースがないままだと話にくい。観光の数字も伏見区への入り込み数はあまりつかんでいないのではないか。そのような点も行政サイドで吸い取りながら進めていかなければ、10年後、哲学論と理想論だけでいくのは怖い気がする。

座長 : ご指摘の点は、次回、把握されている基礎データを出していただくということでお願いします。

予定の時間となった。ほかにもご意見がおありだろうが、意見用紙やメールその他で事務局へ3月31日までに出していただくようお願いする。

今回は6月、7月あたりで日程調整させていただく。本日のご意見や市全体の計画との調整を踏まえて素案の修正案、パブリックコメント案を提示し、ご審議いただく。

#### 4 閉会

事務局 : 以上で本日の伏見区基本計画策定委員会を終了させていただく。